総合心療センター　デイケアメンタル

室長　川渕　忠義

はじめに

令和 5 年（2023 年）は、5 月に COVID - 19 が 5 類へ移行となり、コロナ禍前の治療環境に戻りつつあるなか、提供する治療や支援の質を落とさないこと、加えて、新しい取り組みへの挑戦をおこなった一年であった。結果として、いまだ利用者数の回復までには至らずコロナ禍前の状態にはほど遠く、苦しい経営状況が続いている。そんななか当院の入院、外来との連携強化、他院、クリニックとの信頼関係の構築に注力し、利用するまでに至っていないケースの掘り起こしや支援の幅を広げる取り組みをおこなった。

運営状況

デイケアメンタルの運営体制は、スタッフの顔ぶれは昨年と変化はなく、リーダーを担う作業療法士 1 名、看護師 1 名、公認心理師 1 名の計 3 名のスタッフが経験豊富なベテランスタッフで構成されている。昨年に引き続いて、週 1.5 日のペースで病棟の作業療法室所属のベテラン作業療法士のサポート体制を継続、提供する治療プログラムの実践や評価・査定といった側面を補完する役割を担ってくれている。またこの構成メンバーでの実践は今年で 3 年目になり、チームワークの強化を図り、結果、難しいケースに対してもチームで対応する事ができた。新しい取り組みについても、スタッフ個々がコスト意識を持ち、利用者増に向けた努力を惜しまず実現できたことは、今後の大きな励みとなった。

実績

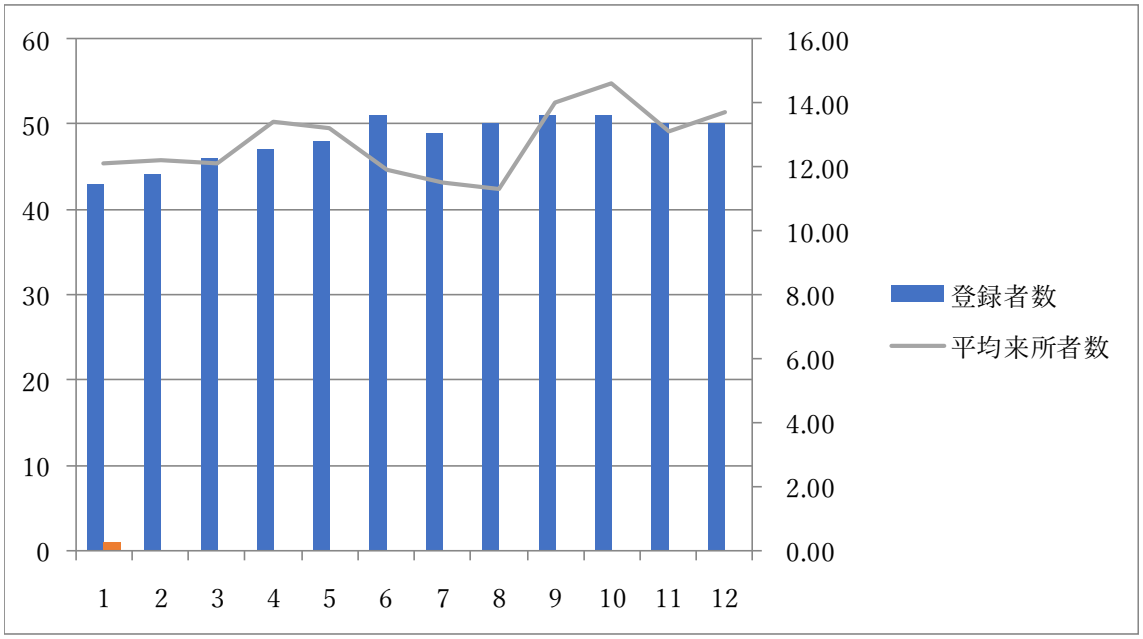
活動実績としては、年間利用者数（グラフ 1）は昨年に続き、減少傾向に歯止めがきかず、過去最も少ない利用者数となった。次年度こそはこの流れを変える工夫が急務である。年間入退所者数（グラフ 2）についても、入所 22 名、退所 14 名と低迷しており、依然、苦戦している状況である。体験はおこなうも入所に至らないケースが数件見受けられるため、入所に至らなかった要因については分析、対応策を講じる必要がある。またデイケア利用者層の拡大も含め、丁寧な動機付けをおこない、入所者数ＵＰへつなげていきたい。一日平均利用者数も上記の影響をうけ、ここ数年登録者数は伸び悩んでおり、全体的に低迷している。個別のケースについては、就労目的の利用者は増えており、平均年齢も 47.6 歳と働き盛りの年代が多くなっている。また次のステップへ移行するケースも若干増えていることから、適切なタイミングでの地域移行やデイケアにとどまらない支援を継続していきたい。

入所者紹介元の内訳（グラフ 3）は、当院外来が半数を占め、ついで入院、他院・クリニックの順になっている。当院入院、外来については紹介数の減少がみられ、入院時からのデイケア移行への支援（退院調整）や外来ケースの掘り起こしなど、他の部署への積極的な働きかけを強化していきたい。他院やクリニックについても受け入れ幅の拡大と丁寧な支援、フットワークの軽い運営を心掛け、積極的な受け入れをおこなっていきたい。疾患別内訳（グラフ 4）においては、例年との大きな変化はなく、統合失調症が約半数を占め、次いで発達障害、その他となっている。主たる対象である統合失調症の利用者については、心理社会的リハビリテーションを軸に他機関との連携強化を図り、積極的な地域移行、就労支援をおこなっていきたい。

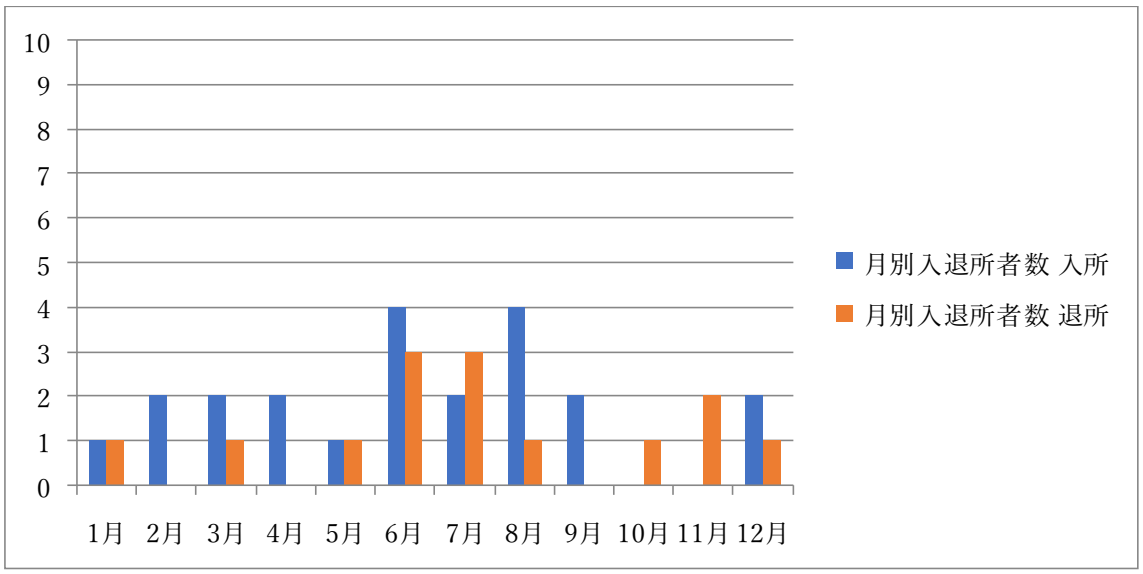
おわりに

厳しい運営状況のなか心配されるのは、スタッフのメンタルヘルスの問題があげられる。上記目標を掲げ、今後取り組んでいくうえではその対策の重要性は言うまでもなく、フォロー体制の構築に注力していきたい。

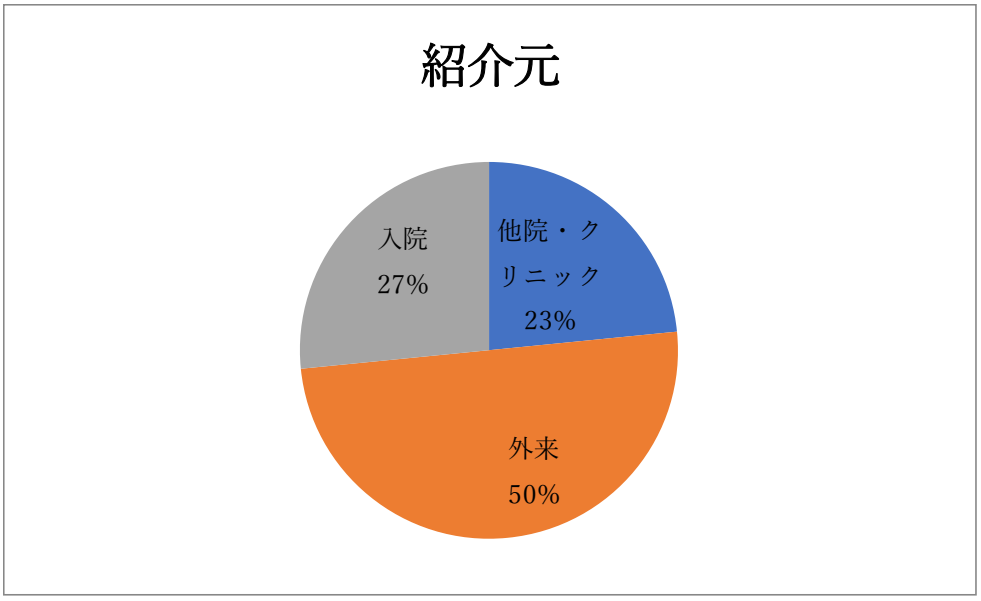
（グラフ 1）


60
50
40
30
20
10
0
16.00
14.00
12.00
10.00
8.00
6.00
4.00
2.00
0.00
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
登録者数
平均来所者数

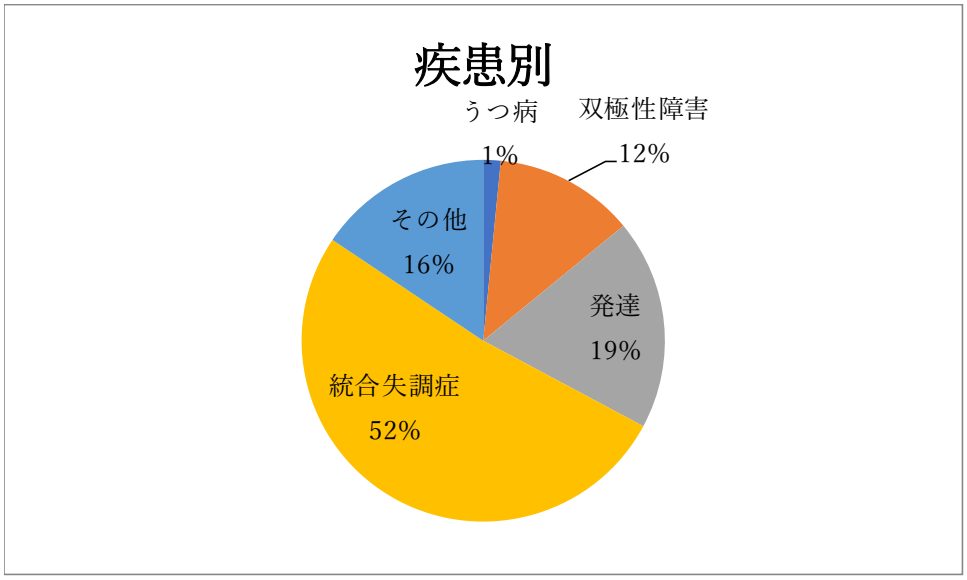
（グラフ 2）


10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
月別入退所者数 入所
月別入退所者数 退所

（グラフ 3）


紹介元
入院
27%
他院・クリニック
23%
外来
50%

（グラフ 4）


疾患別
うつ病
1%
双極性障害
12%
その他
16%
発達
19%
統合失調症
52%